

第6学年 外国語活動指導案

日時 平成24年11月21日(木) 5校時
学級 6年2組 男子21名 女子16名 計37名
授業者 安保 惟子(北上市立飯豊小学校)
共同研究者 鈴木 薫(北上市立江釣子小学校)
照井 葉子(北上市立東陵中学校)

1 単元名 Lesson5 「Let's go to Italy.」(Hi, friends!2)

2 単元について

(1) 教材について

世界には193の国(2006年6月現在の国際連合加盟国)、そのうち54カ国で英語が公用語または準公用語として扱われている(「Data book of the world2005」など)。また、オリンピックが開催された今年、世界各国の国名を耳にしたり、世界の人々の様子や服装などを見たりする機会が普段よりも多くなったと考えられる。

この単元では、世界にはたくさんの国があり、それぞれに文化や特長があることを学ぶ。またそのことを通して、英語はコミュニケーションの道具であるということを知り、伝えたいことを英語で話してみようという意欲を持たせることができる。さらに、行きたい国やその理由について相手に尋ねたり答えたりする活動を通して、コミュニケーション能力を育てる単元である。

(2) 児童について

本学級の児童の多くは、外国語活動に対して意欲的に取り組んでいる。ALTとも楽しく交流している。英語を使って友達と会話したりや外国の文化を学んだりする活動が好きな児童が、全体の90%以上おり、5年生からの活動で外国の言葉や文化に慣れ親しんでいる。本年度の4月からは、アルファベットの小文字に親しむ活動から始まり、10月まで方向の表し方や場所への行き方などの活動を通して外国語に慣れ親しんでいる。

しかし、一方で、英語や外国の言葉を使って会話することや友達とコミュニケーションをとることものに抵抗を感じている児童もいる。また、英語や外国の言葉が分からない、覚えられない、発音が難しいなどの日本語とは明らかに異なる発音の理解の難しさが理由で、外国語活動に苦手意識をもつ子がいる。

(3) 指導について

本単元では、様々な国を表したり行きたい国を尋ねたりその理由を答えたりする新出の語句が多い。国名を知っている児童は多いと思われるが、Where do you want to go?やI want to go to Italy.などにはなじみがなく、また、Why?などの新出表現も使うので、たくさんの語句に戸惑う児童も多いと思われる。そこで、指導にあたってはStep Up方式を第1時から取り入れたい。これは、1時間の活動の中に、簡単な活動から始まって、徐々に難易度が上がっていくという活動を取り入れることである。

第1時では、自分の知っている国やその国の特徴についての発表やゲームなどを通して、国名や国旗などに慣れ親しむ。第2時では、Where do you want to go?やI want to go to~.という表現、Why?と尋ねられてI like~.やI want to see/eat~.などの表現に慣れ親しむための、チャンツやゲームなどの活動をたくさん取り入れていく。第3時では、第1時と第2時を受け、入国審査と出国審査の活動を取り入れる。この活動を取り入れることで、児童は外国語の必要性や重要性を感じるだろう。そして、第4時では、自分の行きたい国やその理由について簡単な英文で紹介する活動を取り入れる。

(4) 研究主題との関わりについて

本単元では、以下の3つのことに関連し指導していきたい。

①「担任一人で授業をどう進めていくか」

本単元を通して、児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような興味・関心のある題材や活動の在り方について検討していきたい。ALT との授業では、ネイティブの先生とのコミュニケーションが主な活動になる。学級担任一人での授業は、その活動が円滑に行われるための素地作りの時間であると考え。学級担任だからこそ、学級児童の実態に応じた柔軟な指導ができるとともに、児童に合わせた活動を取り入れることができる。

本時の授業では、Step Up 方式を取り入れ、活動に難易度をつけ一つ一つの段階を踏ませながら児童のコミュニケーション能力を育てる。また、「話す」「聞く」をお互いに尋ねたり聞いたりする活動を取り入れる。本時では、入国審査と出国審査の活動になる。

②「評価をどうすべきか」

学習指導要領では、外国語活動の評価を考えることが重要な課題の一つである。評価は、三段階などで評価するわけではないので、子ども達の活動の中で評価していくことになる。そこで、効果的な指導につながる評価規準の設定とそれを基にした具体的指導の在り方について検討していきたい。

本時の授業では、授業中の行動観察はもちろん、活動の振り返りをしやすいようにめあてや題名を入れた評価カードを使って、授業の最後に自分の活動で評価を行う。

③「どのような力を中学校の英語科学習につなげていくか」

卒業すると児童は中学校の英語科学習に変わる。その時にギャップを感じる児童も少なくないだろう。外国語活動では、話す・聞く活動が中心であったが、中学校では書く・読むという活動も入ってくる。そのことは、児童に大きなギャップを生むことになるだろう。

そこで、外国語活動では中学校での英語科学習にスムーズに移行できるような「話す」や「聞く」という活動や教材の開発を検討していきたい。

外国語の特有の言い方や表現に慣れ親しませるために、たくさんの活動を取り入れ、たくさん英語を話す機会を設けたい。そうすることで、発音や話し方が異なっても、相手に伝えたいことが伝わるように話したり、相手の意図や考えを汲んで聞いたりする態度を育てる。

3 単元の目標

- ・世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気づく。
- ・自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。
- ・行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

4 単元指導について

(1) 単元指導計画 (全4時間)

【気】…言語や文化に関する気づき、【慣】…外国語への慣れ親しみ

【コ】…コミュニケーションへの関心・意欲・態度

時	目標	学習活動 (指導内容)	コ	慣	気	評価基準	評価方法	形態
1	世界では、様々な人々が生活していることを知り、世界に興味をもつ。	Step1 ☆知っている国を発表しよう。 Step2 ☆世界の料理やスポーツなどを紹介しよう。 Step3 ☆どこ行こ？ゲーム			○	◎世界の国々に興味をもち、どこの国の様子なのか気づいている。	行動観察	T1

						振り返り カード		
2	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。	Step1 ☆どこの世界の世界遺産か考えよう。 Step2 ☆どこ行こ？ゲーム Step3 ☆ここ行こう！ゲーム			○	◎国名を聞いたり話したりするとともに、行きたい国について聞いている。	行動観察 振り返り カード	T1
3 本 時	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。	Step1 ☆チャンツ Step2 ☆ふむふむゲーム Step3 ☆Welcome to ゲーム			○	◎行きたい国について尋ねたり言ったりしている。	行動観察 振り返り カード	T1
4	相手にはっきり伝わるように自分の行きたい国とその理由を伝えよう。	Step1 ☆どこ行きたい？ Step2 ☆おすすめの国を紹介しよう			○	◎自分の思いがはっきり伝わるように工夫して、おすすめの国について発表したり聞いたりしている。	行動観察 振り返り カード	T1

(2) 単元評価規準

自分の思いがはっきり伝わるように工夫して、おすすめの国について発表したり聞いたりしている。

【外国語への慣れ親しみ】

行きたい国について尋ねたり言ったりしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気づいている。

【言語や文化への気づき】

(3) 表現

I want to go to Italy. Where do you want to go?

America, Australia, Brazil, China, Egypt, France, India, Italy, Japan, Korea
eat, see.

5 本時の指導

(1) 目標

行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	・支援 と ◎評価	準備
導入 3分	1 あいさつ T: Good afternoon, everyone. C: Good afternoon, Ambo sensei. T: How are you? C: I'm fine/good/hungry/sleepy/nervous.	・ これから英語の活動が始まることを意識させるために、明るく元気にあいさつをさせる。	Hi, friends!
展開 Step1 5分	2 チャンツで復習する。 国旗カードや食べ物のカードを使って、国名やその国の有名なもの、名所などの復習をする。	・ これからのゲームに必要な表現なので、ゆっくり確認をしていく。	国旗カード 国旗カードと食べ物などのカード
Step2 10分	3 ふむふむゲームをする。 国旗カードを使って、以下の言い方を練習するゲームで楽しむ。 Why do you want to go? I like/see/eat～.		
	<p>【ふむふむゲームの進め方】</p> <p>①ペアになる。</p> <p>②それぞれの相手に見えないように国旗カードから6種類選び持つ。残りのカードをふせておく。</p> <p>③相手に Where do you want to go? と尋ねさせ、I want to go to ふむふむ.と 言う。</p> <p>④その後、今度は Why do you want to go?と聞き、I like pizza.と答え、正解の国を当てる。</p> <p>⑤手持ちのカードの5枚分を繰り返し、多くの正解を取った人が勝ちとなる。</p>		
	4 Welcomle to ゲームをする。 入国審査ブースや出国審査ブースに行き、行きたい国とその理由を話し、ハンコをもらう。	・ 自分の行きたい国の名前や行きたい理由を英語で話すように支援する。	
25分	<p>【Welcome to ゲームの進め方】</p> <p>①入国審査をする側と、旅行者に分かれる。</p> <p>②最初には出国ブースに行く。</p> <p>③出国する側は、Where do you want to go?と聞き、旅行者は I want to～.と 言う。</p> <p>④きちんと言えたときは、出国ハンコを押す。</p> <p>⑤次に自分の行きたい国の入国審査ブースに行く。</p> <p>⑥入国審査する側は、その後、Why do you want to go?と理由を尋ね、旅行者はその国に合った理由を英語で話す。</p> <p>Ex. Where do you want to go? I want to go to India. Why do you want to go? I like curry and rice.</p> <p>⑦入国のハンコを押してあげる。</p> <p>⑧時間いっぱい出国審査や他の国の入国審査に行く。</p>		

ま と め る 2分	5 感想発表 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入させる。また、感想を発表させる。 6 あいさつ T: That's all for today. Thank you very much. C: Thank you, Ambo sensei.	・ できるだけ多くの児童に発表させる。	振り返り カード
----------------------------	---	---------------------	-------------

6 座席表

電	子	黒	板
---	---	---	---

☆支援を要する児童